

ブラッセル日本人学校における外国語会話学習

～現地採用外国語講師との連携について～

ブラッセル日本人学校 教諭

前熊本大学教育学部附属小学校 教諭 須藤 聡

キーワード：国際理解教育、国際交流、外国語会話学習、連携、

1 はじめに

子どもたちに社会の変化への主体的な対応力を育成するために国際理解教育の実践は今後ますます重要になってくると考える。その中で、人権意識を基盤にした我が国や諸外国の文化に対する理解とこれを尊重する態度、外国語によるコミュニケーション能力を育てることが求められている。

本校においても「国際理解を深める教育の創造」という研究テーマを掲げ、国際理解教育に取り組んでいる。

- 自国や他国の文化理解し、それらを大切にできる能力や態度を育てる。
- 情報を収集する能力とそれに対する正しい判断力と活用能力を育てる
- お互いの意思を沟通交流することのできるコミュニケーション能力を育てる。



この3つをねらいとして国際交流教育、情報教育、外国語教育を関連づけながら取り組んでいる。

ベルギーで暮らす子どもたちの生活を考えると、生活をしながらベルギーについてたくさんの情報を得ることはできるようになってきている。しかし、外国語会話能力の不足により、現地の人々との交流へ不安を持ったり、言いたいことが相手に伝わらないことで寡黙になってしまったりすることも多々ある。また、くもん研究所2000年2月小4～高3調査によると「国際人として必要なこと」

を子どもたちに質問した結果、第1位として65.8%の子どもが語学力を上げている。

そこで、ここでは、本校の外国語会話学習の特色と教科等の学習との連携に絞って述べていきたい。

2 本校の外国語会話学習カリキュラムの特色

(1) 小学部外国語会話学習の目標

- ・日常生活や国際交流等の具体的な場面での会話を覚え、楽しく自信を持って外国語を話せる子どもを育てる。
- ・基本的な語彙を使って質疑応答ができる子どもを育てる。

(2) 指導内容と時間

効果的な学習効果を上げるために、帯時間指導を弾力的に行い、毎日少しずつ外国語を学習できるようにしている。

学年	指導内容	指導時間
1, 2年	仏語のみ	1単位時間20分間 (週2,2時間×35)
3, 4年	仏語, 英語の選択制	1単位時間20分間 (週2,2時間×35)

5, 6年	仏語, 英語の選択制	1単位時間30分間 (週3,3時間×35)
-------	------------	-----------------------

(3) 指導体制

① 仏語

3名の現地採用講師が毎週指導内容の打ち合わせを行いながら、子どもの生活経験や習熟度別に初、中、上級の3つのクラスに分けて指導している。

② 英語

4名の現地採用講師が、3年生以上の指導を行っている。仏語同様、毎週指導内容の打ち合わせを行いながら、子どもの生活経験や習熟度別に初、中、上級の3つのクラスに分けて指導している。

3 各学年の国際交流活動と外国語会話学習との連携について

本校では、国際理解教育を積極的に推進している。その中で、現地校との交流や現地施設の見学、交流など各学年で計画的に実施している。そのような交流の場面は、外国語会話学習の目標にもあるように具体的な場面で必要に応じて外国語を話すよい機会だととらえ、外国語会話学習との連携を積極的に推進している。

以下に、外国語会話学習と国際交流活動との関連をまとめてみた。

学年	交流活動と教科等との関連	内容など
1年	老人ホーム訪問：生活科 現地校との交流会：生活科, 音楽科	あいさつ, 折り紙, 似顔絵 あいさつ, 学校探検, 歌 あいさつ, 自己紹介
2年	町探検, マルシェ見学：生活科 文化祭：行事 現地校との交流 (マルシェづくり)：生活科	あいさつ, 質問, 買い物 仏語による演劇 あいさつ, 販売
3年	町探検, スーパーマーケット, チョコレート工場, ジャガイモ農園見学：社会科 現地校との交流：総合	あいさつ, 質問 あいさつ, ゲーム
4年	現地校との交流：総合 サマースクール：行事	あいさつ, あいさつ, 質問, 活動に必要な会話
5年	現地校との交流：総合 サマースクール：行事	あいさつ, あいさつ, 質問, 活動に必要な会話
6年	現地校との交流：総合 修学旅行：行事 サマースクール：行事	あいさつ, スピーチ あいさつ あいさつ, 質問, 活動に必要な会話

4 外国語会話現地採用講師との連携の取り方について

日本人学校に登校している児童は、学校生活の中で、現地の言葉を遣ってコミュニケーションをすることはまずないと言っている。だからこそ、教育課程の中で、意図的、計画的に現地の言葉を遣ってコミュニケーションする機会を作っていかなければならない。そのときに、現地採用講師との連携を図った指導が欠かせない。連携をしながら指導をしていくためには、指導の目的、内容、時間といったことを前もって打ち合わせておく必要がある。外国語会話のカリキュラムは、基本的には、外国語会話講師にゆだねられており、その中に入れてもらうことになるので配慮も必要である。また、現地採用講師は、指導をする時間と週1回45分の打ち合わせの時間

が勤務時間となっており、担任との打ち合わせを行う時間の確保も課題である。しかし、現地採用講師も、担任と連携して実際に外国語を使う学習に積極的に協力し、望んでもいる。在外施設の特長を生かし、今後も積極的な連携を模索していく必要がある。

5 具体的な取り組みについて

(1) 小学部第1学年生活科学学習指導の実際「ベルギーの友達と仲良くなろう！」

前にも述べたようにコミュニケーション能力の育成のためにも1年生から外国語学習を行っている。そこで、外国語学習が役立つことを意識できるように交流学习への活用を図っていきたいと考えた。学校間国際交流に生かすためには、学級担任と外国語講師とが協力して教材を開発し、授業づくりを行い、計画的に楽しく学習ができるようにしていくことが必要である。

そこで、生活科の学習で同世代のベルギーの子どもたちと交流できる機会を設定した。その中で、子どもたちが様々な問題を解決していきながら、外国語学習に興味や意欲を持ち、言語意識を高めながら自信を持って文化の異なる子どもとも友だちになれるという意識を持てるようにしていきたいと考えた。

(2) 指導の工夫

- ・フランス語によるコミュニケーションが楽しんでできるように、ゲームなどの活動を取り入れた。
- ・学習意欲を喚起させるために交流を意識したフランス語会話の学習を計画した。
- ・1学期に生活科で学習した「学校探検」との関連を図ることで、主体的にフランス語での表現を求めることができるような学習にした。
- ・学校紹介をするときに、文字による交流をできるだけ少なくし、相手に分かりやすく、身近に感じられるようにITを活用した交流をした。
- ・子ども一人一人の能力を生かすために習熟度別グループを縦割りにした活動を取り入れ、相互評価をする場を設け、互いに認め合い、教え合いながら学習が進んでいくように工夫した。
- ・外国語講師との連携を密にとりながらお互いに協力して授業ができるようにした。

(3) 単元の目標

- ・異文化をもつ同世代の子どもに親近感をもつことができる。
- ・各教室の言い方やゲームで使う簡単なフランス語の表現を使うことができる。
- ・フランス語で表現する楽しさを味わうことができる。
- ・他者評価を得ることで、自信と意欲を持つことができる。

(4) 具体的な指導

主な学習活動
1 現地校との交流の様子を知り、どのような活動をするのか考える。
2 グループごとに学校探検の計画を立て準備をする。
3 フランス語会話において、学校の教室などの言い方を練習する。
4 学校探検のリハーサルをする。
5 グループごとに一緒にする活動を考え、準備をする。
6 フランス語会話において、活動の時に必要な会話を練習する。
7 交流会のリハーサルをする
8 ピノア校の子どもたちを招いて交流会をする。
9 今度の交流に生かすために交流会を振り返る。

(5) 考察

① 学習活動について

- 学習の見通し（目的、相手、内容、方法）がはっきりすることで、子どもたちの学習意欲が高まり、交流に向けての学習に大変意欲的に取り組んでいくことができた。
- フランス語会話の授業では、意欲的に楽しみながら学校紹介のフランス語を覚え、正しい発音で言うことができるようになった。
- グループ活動の中で、フランス語を学び合いながら交流の準備を進めていくことができた。また、グループ同士で他者評価をすることで活動への意欲がより高まっていった。
- 交流会では、子どもたちが、自信を持ってフランス語を使い、学校を案内する姿が見られた。
- 外国語講師と協力する場合には、打ち合わせの時間確保をし、学習の目的の共通理解、学習方法の違いなどの問題を解決していかなければならない。そのためにも、カリキュラムの見直しを図っていく必要がある。また、TTで学習を進めていくときの役割分担や組み方などをさらに工夫していく必要がある。
- 担任の外国語能力を高めておくことより効果的な連携ができる。

② 言語意識、並びに、心情や感覚、態度、実践力について

- 目的、相手意識が明確になると内容意識が生まれ、内容意識が明確になってくると方法意識が芽生えていくことが分かった。
- 活動終了後の自己評価では、41名が交流は楽しかったと答え、できるようになったことについては、フランス語ができるようになったことをあげている子どもが32名いた。このことから学習を通して子どもたちの言語意識の高まりと学習に対する充実感がうかがえる。
- 自己評価の困ったことの記述の中で、コミュニケーションがうまくできなかったという内容の回答がまだまだ見られた。今後の継続的な活動が必要である。

6 まとめ

外国語講師との連携を図る上で、カリキュラム、時間、言葉、指導についての考え方、協力の在り方など課題は多くあるものの、子どもたちのために互いに協力し合うことについては、担任も外国語講師も同じ思いであることは確認できた。今後ともよりよい連携の可能性を探りながらカリキュラムの改善を図っていかなければならない。